

県青年海外派遣友の会副会長 渡 辺 守 久
 県青少年赤十字語学奉仕団委員長 相 楽 新之助
 県民生活課外事班 渡 辺 正 八
 いわき市秘書室 坂 本 嘉 光

③ 部 会 協 議

ア 学校における国際交流部会
 イ 地域における国際交流部会
 ウ 助 言 者
 船引町わかき幼稚園長 牧 公 介
 福島県ユネスコ連絡協議会事務局長 大 越 源三郎
 福島県教育庁県中教育事務所指導主事 水 野 純 一
 " 社会教育主事 関 口 孝 照
 " " 金 沢 隆 夫
 " " 鈴 木 啓

④ ユネスコ協会活動の促進に関する部会

福島県ユネスコ連絡協議会事務局長 大 越 源三郎
 福島県教育庁社会教育課社会教育主事 七 島 征

第5節 家 庭 教 育

1 概 要

今日の社会的諸条件の変化は大きいものがあり、親等が家庭教育を正しく理解し、日常生活のなかで実践することはますます必要となっている。

このため、家庭教育に関する学習の機会をもうけるとともに、その内容・方法について工夫改善に努めてきた。また、家庭・学校・地域の連携によりいっそう学習の充実を図ってきた。

まず第一に家庭教育学級では、1小学校区1学級の設置を目標とし、とくに市町村の自主設置学級の増加に努めた。

また、家庭教育研究集会を開催し、学習内容と効果的な学習の進め方について研究協議を実施し、家庭教育学級の充実を図った。

第二には、家庭教育（幼児期）相談事業を実施した。県内の3歳第1子をもつ親を対象として、はがき通信・巡回相談テレビ放送を実施し、幼児期の家庭教育に関する学習資料の提供ならびに個別的な相談指導をおこない家庭教育の充実を図った。

第三には、家庭教育調査研究事業を実施し、今日の家庭教育上の課題を分析検討し、この結果を家庭教育資料として社社教育関係者に配布し、その活用を図った。

2 家庭教育研究集会

(1) 趣 旨

家庭教育に関する学習の機会を拡充し効果的な学習をす

めるための具体的な方策について研究協議を実施し、家庭教育の振興を図る。

(2) 主 催

福島県教育委員会・田島町教育委員会

(3) 期 日 昭和57年5月26日(木)

(4) 会 場 田島町中央公民館

(5) 参加者 200名

(6) 対 象 ①市町村教育委員会、公民館等の家庭教育担当者

②家庭教育学級運営委員および学級生代表

(7) 講 師 新潟大学教授 吉 川 弘

(8) 研究テーマ

家庭教育学級の学習内容を精選し効果的な学習を進めるにはどのようにしたらよいか。

(9) 内容および方法

① 講 義

家庭教育学級における学習内容と効果的な学習の進め方について

② 部 会 協 議

ア 明日の親のための学級を充実するために企画運営と学習内容の精選をどのようにしたらよいか。

イ 乳幼児をもつ親の学級を充実するために企画運営と学習内容の精選をどのようにしたらよいか。

ウ 家庭教育学級を拡充し効果的な学習の進め方をどのようにしたらよいか。

・部会においては家庭教育資料の内容に関連させて協議する。

3 家庭教育（幼児期）相談事業

(1) 趣 旨

幼児（3歳第1子）の親を対象とし、幼児期の家庭教育に関する具体的な学習資料の提供と個別的な相談指導をおこない、幼児期における家庭教育の充実を図る。

(2) 実 施 主 体

福島県教育委員会

(3) 協 力 機 関

市町村教育委員会

(4) 実 施 時 期

昭和57年5月～昭和58年3月

(5) 対 象

県内の3歳児を第1子にもつ親 13,000名

(6) 事 業 の 内 容

① はがき、ちらしによる相談指導（年間5回）

② 巡回による相談指導（県内23会場）

③ テレビ放送（15分カラー 26回）

(7) 各 種 委 員 会

① 企画運営委員会

ア 企画運営委員会は、本事業全般の企画運営ならびにはがき通信・巡回相談・テレビ放送による相談指導の方針や実施要項を策定する。